

舞台は世界だ!

# Go! Global

お互いの健闘をたたえて。

2019 KGM  
グローバル人材  
育成プログラム  
レポート Vol.17  
〈Dec.2019〉



# NO SIDE

KANTO GAKUIN MUTSUURA JUNIOR&SENIOR HIGH SCHOOL

ますます進むグローバル化は、加速するボーダーレス化とも言えます。中高一貫校での6年間は、入学から10年後、さらには20年後の社会を見据えて準備する大切な時と場です。関東学院六浦は、ボーダーレスに向かう社会を早期に意識し体験する学習環境づくりを進めてきています。「若く純粋な想いを道へ……将来を世界に繋ぐこと」が新たな使命と考えています。



# International Rugby Program

# NZ留学レポート



St.bedes college で、様々なことを学んできました。私は International Rugby Program というプログラムに参加させてもらい、主にラグビーを中心とした活動をしてきましたが、ラグビー以外にも、英語や数学、社会(道徳)のセッションを行ったりもしました。ラグビーのセッションでは、パス、タックル、判断力、フィジカル、フィットネス、アジリティ、分析力など様々な力を蓄えるためのセッションを行ないました。特に分析力のセッションは、パスタックル判断力のセッションと週末に行われる試合の分析を行い、次に活かすセッションです。何回も自分の動きを見ることによって、客観的にそのセッションを復習すると共に自分の動きを修正します。どのセッションもとても効率的で、ラグビーに集中することができ、有意義な留学になったと思います。

私が参加した IRP(International National Program) には、様々な国の人が参加していました。例えば日本、アルゼンチン、チリ、イタリア、イングランド、UAE、ウガンダなどの国です。それぞれの国が違う文化を持っていて、いろいろな意見を聞くことによって考え方や見方が広がるということがわかりました。とても、いい経験になりました。また、現地のラグビーチームにも参加させてもらいました。週に2回の練習と、週末の土曜日にある試合を行い、NZのラグビーを体験することができました。ラグビーで

もスタイルや戦術が違うのはもちろん、なにか他に違う文化や伝統的な面も感じることがありました。ミスをしたミスをした人を責めないですぐ切り替えるところや、ラグビーをしているときは笑顔が絶えないところなどが NZ のラグビーの良いところだと思います。

NZ で印象に残っていることは、とても自然が綺麗な国だということです。また、様々な国の人が観光ではなく永住していること、現地のマオリ族の人達とごく自然に暮らしているという文化がとても素敵だと思います。多民族国家だからこそ、協調性があり、知らない人とも壁をつくらず、フレンドリーな人がとても多い国で、とても暮らしやすい国でした。もし、ニュージーランドに留学する機会があるのなら、たくさんの人と積極的に話すことをお勧めします。なぜなら、NZ の人は優しく話を聞いてくれて、英語が通じなくても、ジェスチャーなどでコミュニケー

ションをとってくれるからです。また、NZ だけでなく海外に行った時は、日本の常識や文化に固執せずに、その現地の文化に合わせる事が大切だと感じました。いいところはたくさん吸収して、自分が正しいと思うことはしっかりと自分の意見として持つことも大切なことです。このことを意識すればよりいい経験になると思います。

これからも、留学で学んできたことを様々な面で活かしていきたいと思います。ラグビーではもっと笑顔を大切に、常に広い心をもつことなど。また、違う国の文化や伝統のようにいろいろな知らないことを受け入れる姿勢も大切にしていこうと思います。そして、また留学する機会があったら、今回の留学よりもいい経験ができるように頑張りたいと思います！

4年生 男子 K.T







活動は2018年4月、たった3人のメンバーからスタートしたこのディベート活動は徐々に人数も増え、様々な学年の集まりとなってきました。活動のきっかけは、英語に力をいれ、たくさんの海外研修プログラムのあるこの学校に、気軽に生徒が英語を通して学び、英語に親しむことのできる場を提供したいと考えたからです。

ディベートをすることで得られることは幅広く、英語力の向上はもとより、さまざまなことへ疑問を持ち、しっかりと自分の意見を考える力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力を向上させます。また、討論する議題も幅広くあり、学校の中の問題から教育問題、時事問題や紛争問題など多岐にわたることから様々な教養を身に付けることが出来ます。

では、なぜここでそれが英語によるディベートでなければならないのかというと、世界の総人口の73億人のうち、約15億人、つまり5人に1人が話す英語は私たちの問題解決を助けるからです。

様々な英語力調査が示すように日本人の英語力は残念なことに高くはありません。例えば2017年度(平成29年度)に全国の国公立の高校3年生を対象とした英語力調査(文部科学省)では、スピーキングにおけるCEFR A2以上の割合が12.9%、ライティングにおいては19.7%と残りの2技能(リスニング33.6%、リーディング33.5%)と比べても低い割合です。このスピーキングの能力の低さを改善するための最良の方法の一つがディベートなのです。将来、私

たちが社会に出たとき、もっとも容易な世界とつながるツールが英語だと言えるからです。そこで、私たちは中・高校生という早いうちからそうした社会に対応できるように英語ディベートを学内で推進していきます。

Through debating, we can learn to respect others and achieve mutual understanding. Then, we can get closer to the realization of the school motto, "Be a man. Serve the world".

(ディベートの活動により、お互いを理解し、他者を尊重することを学べる。そして、教育方針である「人になれ、奉仕せよ」の実現につながる。)

6年生 男子 K.I

## パラメンタリーディベートとは

一つの論題に対し、肯定と否定チームに分かれ、各々のチームが第三者を説得させるパブリックスピーチ型のディベートです。論題は、社会・政治・倫理・環境・国際問題など多岐にわたります。論題が発表されてから、15分～30分程度の短い準備時間の後、ディベートを開始します。ディベートをする者は、肯定か否定チームのいずれに属するかを自ら選ぶことはできず、自身の意見とは異なる観点からの主張も考えなければならないことがあります。

(PDA-Parliamentary Debate Personnel Development Association Website より引用)



第8回新緑杯ディベート大会に参加。この大会はパラメンタリーディベートで実施されています。



# タイへの訪問での経験

今年の夏、小学校タイの訪問団に同行し、貴重な体験をさせてもらいました。その中で一番自分の心に残っているのは、現地の子もたちの眼の輝きです。タイは、十分な食事や教育などが地域によって行きわたっていない国です。その反対で、日本は貧しい人は少なく、食事や教育も十分といえるほど供給されています。日本ではそれが当たり前のように感謝しきれていないことがあります。食べ物の好き嫌いがどうか、勉強が面倒くさいなど、文句を言うのはこの国では珍しいことではありません。

でも、私が訪ねたタイの子どもたちは今あるものに感謝し、好き嫌いをなく、食べられるものは食べ、受けられる教育には真面目に取り組んでいました。そんな子どもたちは、私たち訪問団が、何か新しいことを教えると、眼を輝かせて笑顔で学ぼうとしていました。その輝きに私は、新しいことを学ぶ大事さに気づかされました。

また、私たち先進国は、新しいものをすぐに得ることが出来ます。それは、新しいゲーム

だったり、スマートフォンだったり、最新の物が販売されたら、また欲しくなるなど欲が絶えることはありません。一方で、タイのような発展途上国は、今持っている物を大事にし、欲しい物ではなく、今あるものだけで満足していました。私はそれが人間の見本のようなものを感じました。欲にとらわれず、持っているものを何年も使い続け、感謝をすることが、尊敬すべきことだと思いました。

けれども、貧しいことは、この世界では決してプラスなことではありません。私が訪問した際には支援を受けて学校に行っている子どもたちもいました。中には親がいなくて寮が自分の家だという子もいます。でも、その子どもたちは幸せな方で、訪問したティワタ村よりもっと山奥に行けば、もっと貧しく学校に行けない子どもたちや食事がとれない子どもたちがたくさんいると聞きました。私はその村の子どもたちがどうにか学校に行って、将来が明るいものにならないか、ずっと考えて願っています。全ての子どもに、当然、学ぶ権利があると思います。どうにかその子ども

ちの支援を出来ないかと考えています。

この経験で学んだことは、今自分がいる環境に感謝することです。このタイの訪問に行くまで、私は自分がどれだけ恵まれているか気づかず、考えもしませんでした。自分が受けている教育も、自分がするこれからの将来の選択もこの環境にいるからこそ許されていることで、当たり前なことではないと気づかされました。もっと自分の人生を大切に、感謝をすることが大事なことだと学びました。

5年生 女子 DS



## 台湾の中高生との交流



11月、台湾にある屏東県私立陸興高級中学の生徒さんが本校へ来校しました。

中学生6名と高校生18名の24名の生徒さんを、Pre-GLEに所属する22名の生徒とたくさんのGET(Global English Teachers)がお出迎えました。

まずは、お互いのパートナーの名前や学年などの情報交換、そして、お互いの国について英語で話しあいました。すぐに交流の輪が広がっていきました。最後にプレゼント交換

をしました。その後、部活動体験へと向かいました。

台湾の生徒さんは茶道部と剣道部の日本文化を体験しました。茶道部では、お抹茶に苦みはあったようですが、最後の一滴まで飲み干していました。また、剣道部の体験では実際に竹刀を持ち、基本の足の動作、面打ちの練習を部員相手に行いました。基本動作も大切ですが、それよりも「気迫」が大切だと部員から言われると、より大きな声を出して面打ちをしていました。

東の間でしたが、台湾の生徒にも本校の生徒にも楽しいひと時、身近な国際交流の時間となりました。

## 校長先生のメッセージ

◆大学入試の英語……大学入試センターの試験ではない民間試験を導入するかどうかで日本中が沸き立ちました。でも冷静に受け止めなければいけません。英語教育は大学入試が目標ではなく、未来社会に生きる力そのものの教育です。◆日本の10、20年先……少子高齢化がいつそう進み、日本の中の日本人の人口が減少します。社会の変化を深く洞察することがこれまで以上に大事です。海外、特にアジア諸国との経済関係を想像するとボーダーレスで働ける力がますます必要になるでしょう。◆ASEAN 諸国の中等教育(中学・高校)……グローバル・スタンダード化が深く浸透しています。学校を訪ねると英語教育はもちろんのこと、同じアジアなのに、日本の学校での学び方と大きな違いがあることに少なからず気づきます。◆六浦の“Go! Global”……視野を広げること、そして、新たな経験をそれまでの経験や学びと再構成し、未来社会に生きることを考えること。テーマは、未来への力の獲得です。(黒畑勝男 2014年入職就任)

最新情報はこちらから



学校公式サイト  
<https://www.kgm.ed.jp/>



Instagram  
[https://www.instagram.com/kanto\\_gakuin\\_mutsuura/](https://www.instagram.com/kanto_gakuin_mutsuura/)



facebook  
<https://www.facebook.com/kantogakuinmutsuura,jsh/>

